

「 研 修 報 告 会 」

日時：令和元年12月7日（土）10：00～11：55
（受付9：40～）

場所：サンエールかごしま 中研修室3

参加者：19名（会員19名）



〈研修報告会内容〉

1. 「三部会で盛り上げよう！～切れ目のない支援と産後ケア～」 原田 みゆき 氏
2. 「全国性教育研究大会」 玉利 恵美 氏
3. 『鹿児島県看護協会「災害支援ナースの第一歩～災害看護の基本的知識～」』
大迫 美穂子 氏
大村 祥恵 氏

「三部会で盛り上げよう！～切れ目のない支援と産後ケア」

前年度2/22～2/23に参加された研修の報告が原田氏より行われました。

日本助産師会の産後ケアの取り組みの現状として、全国での実施状況は実施26.2%。未実施の中で実施予定が60.5%、実施予定なしが28.6%ということでした。事業形態としては宿泊型が多く77.3%でした。産後ケア事業の直接的効果には、母親の育児に対する不安が解消、自信をつけることができた等や間接的効果には、より利用者の個別性、ニーズに応じた専門的なケアを提供できるようになった等が回答としてあがっていました。東京都や大阪府、和歌山県など他県の取り組みについても具体的に報告があり、今後の自分達の活動にも繋がられるような内容でした。

新生児聴力検査についても発表がありました。スクリーニングについての5W1Hについて、詳細に必要性や方法等詳しく説明して下さいました。スクリーニングの実施が、聴力に障害を持つ児をなるべく早期に発見し、早期療養を行うことで、言語発達障害を最小限に抑えることに繋がるということを知り、改めてスクリーニングの大切さを実感しました。

「全国性感育研究大会」

新学習指導要領を踏まえた性に関する指導の推進を行っていく上で、性に関する指導については、外部講師として助産師の担う役割や期待は大きいと感じました。実際に発表者の玉利氏が、性感育に行かれています中でのお話として、学校側と助産師が子供たちに伝える内容について共通理解しておくことの大切さを話されていました。助産師だからこそ伝えられる部分を学校で子供たちに関わる先生方にも伝え、同じ思いを持つことでより生徒に訴えるものがあると学びました。

今話題となっている「SNS に起因する性暴力被害の現状と対策」の講座についての発表もありました。ツイッターやインスタグラムなど容易に使用できるものが溢れており、SNS が子供たちの中に日常になっていることは避けられない現状があります。そのような中で、学校現場では使い方や危険性の周知、そして利用時間などを考えるルール作り等の教育も取り組まれているとのことでした。それだけでなく、実際にトラブルに巻き込まれるケースを分析した結果によれば心の発達やコミュニケーション力など、従来からもある思春期の課題と重なることが多く、助産師の性感育を通しての関わりも今後より期待され、重要となっていくと感じました。

『鹿児島県看護協会「災害支援ナースの第一歩～災害看護の基本的知識～」』

鹿児島県看護協会で行われたインターネット配信による研修報告が大迫氏と大村氏より行われました。

災害医療の基礎的知識として、災害とは何かというところから災害の種類についても説明がありました。災害時にやるべきこと「CSCATTT」について、「C」指揮命令系統の確立、「S」安全確保、「C」連絡、「A」状況評価・判断、「T」トリアージ、「T」治療、「T」転送の重要性を学びました。

災害時に求められる看護支援活動については、災害看護の基盤をなす能力として論理的思考や問題解決プログラムが重要であり、それは普段私達が行っている看護過程の展開と類似していることも知りました。

災害時の心理変化とこころのケアとして、人道支援、災害時のメンタルヘルス、心理的応急処置についても触れられ、よい言葉かけは災害時に心の支えになるということをお話されていました。支援者自身もストレスを抱える可能性があり、セルフケアと組織的な対応の大切さを実感しました。